

る。しかし、「人間の頭髪の本数は有限か無限か？」と難しい顔をして尋ねれば、むろん、だれでも“有限”と答えるにきまっている。その所が、人間の認識に整合性を要求できない所以だといってもよいし、また、無限というものが、そもそも少なくとも凡人にはそのまま把握できるものではなく、「ウンと大きな数」のモデルとしての概念上のものだという事もできる。

さて、ハゲと正常を上のように定義すれば、上記の

帰納法にも問題はなくなる。頭髪の本数が有限の人はすべてハゲであり、これに有限本の頭髪を増やしても、まだ頭髪の本数は有限だから、ハゲは直らない。また、正常の人の頭髪の本数は無限だから、むろんハゲではないし、1本や2本毛を抜いてもハゲにはならないということになる。すべての有限な n について、 $\infty - n = \infty$ だからである。

この議論いかなるものであろうか？

(からくり堂主人)



研究部会報告

●数理計画●

●第7回(臨時)

日時：11月4日(火) 場所：統計数理研究所 出席者：15名

講師とテーマ：E. Spedicato (University of Bergamo) “Stability of Quasi-Newton Method for Unconstrained Optimization”

●第8回

日時：11月22日(土) 場所：統計数理研究所 出席者：25名

講師とテーマ：

- 1)久保田光一(東京大学)「高速微分法による線形方程式解法の丸め誤差の推定」
- 2)山下 浩(数理システム) “An Algorithm for Linear Programs with Polynomial and Superlinear Convergence Property”

要旨：1)高速自動微分法の簡単な解説のあと、計算された関数値に含まれる丸め誤差の推定ができるという高速微分法の利点にもとづき、線形連立方程式系を解くときの丸め誤差およびスケールリングの影響が論じられた。

訂正

第32巻第1号の表紙の一部に、印刷上の手違いから誤りがありましたので訂正いたします。表紙上部に“新シリーズ第1巻”とありますが、これを削除いたします。
(編集委員会)

2) Ghellinck and Vialの変数と伊理・今井の乗数的罰金法を組み合わせることにより、多項式オーダーの解法とニュートン法とを結合した線形計画法の新解法が提示された。

●待ち行列●

●第29回

日時：12月5日(土) 14:00~16:00

場所：東京工業大学情報科学科会議室 出席者：26名
テーマと講師：

- Q29-1 Mathematical Statistics for Queueing Systems (GDR・Dieter König) 待ち行列システムの種々の特性量について、どのような特徴に着目し、いかに観測するか、数理統計学の立場から解説した。
- Q29-2 An Approximate Analysis of the Routing in Completely Connected Networks (電通大・小野里好邦)あるルーティング方式の基本特性を解析した。

■会員近況・声■

江崎和代 神戸商科大学商経学部管理科学科

私の所属する管理科学科では、“システムの望ましい設計と運用”に関する科学と技術を修得することを目標に授業が進められております。その中で、私の所属する真鍋ゼミでは、3回生の間、ネットワーク理論について、文献を参考に議論をしたり、プログラミングを行ったりしています。私個人としては、現在、卒論テーマに、パッキング問題をとりあげ、頭を悩ます毎日です。2次元パッキング問題(パレットに等しい大きさの箱をつめ